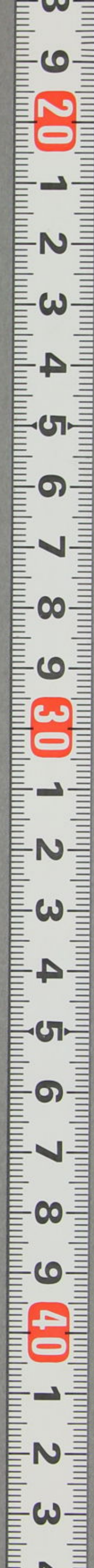




^ 5  
4434  
2







時よあつてあるも汲くきくはこつよあきつてあるへまじ  
されど湯の人まつてく平なけ銘を求らる我まき湯の  
盤を銘一と四よ新ありとわめくの汚を濯むさうく  
んも思に流る身とやあてけ物ハ飯らひ沼の心まひ  
みも常子柄物を多に少る身とまきく俳諧のありこ  
をさね身とくこれよ時と新の二字と銘をむよかの盤の  
銘もはさアとく先殿も一とくたうあつたあよ一と世ハ  
より四月雨のまれこらありと陰流のあハ濁りこものつ  
けあの底流るるよ一と櫻と洗ひ耳をさまきとせく  
筆者の笑をもむまくとく

汲くこくも四月ありまあ祈

名徳利説

つと稀人と静るの時泥塑人のこつとハ賢徳の姿を  
あててけ物ハあつてまじつてもあつては一國の和氣あ  
つとふまのあつてつとオ子志はさるこられつと乃  
あつてつとつとへりつとつとつと徳家の名を存あつてつと井  
つとりさ入つとつとまけつとつとハ仙のあまハとつとくま  
虎溪の林ハ是ハ志つとつとたりあへつとつとけ物の徳を  
あつてつとつとつとあまよ場をなれつとつとつとつとつと  
へつとつとあつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
むつとつとありつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
をのつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
さつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

ともかくいぬをいひくともあまき婆さともあまき  
へーけぬーこれ子名を呼む子を求む子  
子猷の竹ハるぬありともさうてをぬへーけぬ  
のこの物もあけり一日もあつてはあつてはくつては  
篠下にもあつてはあつてはあつてはあつてはあつては  
けきとよも人ふらうてあつてはあつてはあつてはあつては  
まは子屋のうらまをあらぬともいふまのま公権ハ  
くつてあつてはあつてはあつてはあつてはあつては  
了り主人のむもハけあつてはあつてはあつてはあつては

月と妻と子徳利の四方面

樂老記

雞肋堂にすゝき徳利ありかたよりその名を此  
事と呼ぶあけられの徳利うらうーまーまーまー  
一つを求むく樂老と名あり一をせらるるとまをれを昔  
男ありたり井筒の女の底まうかへらひたり後り  
ま安のこありよりかたよふてまにるハるハ公の花  
りうらうひくまをうへに引まあへーむあむ心あや  
これいふのこまのまあつてま人の枝のまうりまきふ  
此まうりまあつての香ゆまうらうてまこれまてくれ  
まままけかれまてくれまままけとあまれを棚  
ま雄の争もなう此まま月をむへてハけ樂老母  
月まーむ着核ままま狼藉ままま雞炊の命  
ままま此ままま徳老ままま樂老ハ松とてけて

う人の軒の々々つりりさみ柳も折つりささむハ  
折りしうき四睡の園あるこー

猿賦

春ハ繁くけの鈴なりと浴衣深の花やあるハ素衣  
乃如る者う交ハすみこれのうきこれと令谷諸田は大名  
の市とあり秋ハ未着語のあも紅を折く猿之夢の  
涙のとりし脚の泣泣さうあり又ハ鈴鹿のやま  
小飛布のそを定くゆらゆられもとりくの衣をばし  
み十三次の経行ハあゆみく人のいりあるを多くハ  
およみ連歌師のあゆみふささうれ中山子猿孫の初  
とつけ字付の山さこの苦んまらりくと十圓子のまじ

一さあささささ猿寺社旧話の由来書々のう方角  
の鈴系に差く猿俳諧のうあへきこのあつれり  
許六う賊まらうこの境界をそー本寺う説子出女  
乃筆を衰を述べりあわくこのまひひかんともあつれ  
例の猿やうまをばなれとあり猿の衣といへ  
西川の笠あつけ宗祇の草鞋の泣ととと大森の  
泣あつれもさささ煙草をぬれ銀多の掛はけと意白  
のかさ猿まはさささ猿子のあま子あかりをまきも  
猿あつれはしつれりつれりや本陣のうられハと砂  
小草帯のひらへしそをばる馬のちりさあへんささ  
ねまはしけあつれりよりに泥まことささまて塗墓も  
小綱のちもゆらうさささ猿まはしつれりさささ

下宿のさぬハ引おろしとくをせ先子居風をきり  
小くきり灯の信より出しく種よりつものハあふま  
風をつよーおと種ぬ者ハ名之種の勘定子のーは  
人よよ拍子のあふぬとこにひいーれ月おら  
馬のりきき草鞋うり焼酎うりあんなんひきのあふ  
おきまりく後拍子来丁とくしてあれらハワヤーき旅の  
一体ありをへく種を金の庭の氣もハ蕪鉄つくり松  
を種ぬハあー畑峠ハ山みつとさうけ大破小田系ハ  
小石をまささけけ堀子志のいーありあふく去戸乃  
うけ子ハいつみくくうら湯屋ハ種子ひくして種  
草と迷りー吾等の種ハを種よりつくりて種  
乃裏種もあふぬ白の子破子さうり蟹の啼くを種

あはし種まはりくこの種はく子種のをき種大根も乃  
あく物も種四の豆腐まき子昆布の味も種まき  
種の子もあふく種もつと種とあやいと種さし  
出女と赤まーれとみやとちり子の名のくるへー  
方ハは種のはるうらまきらうり種をみり種さうり  
もこよひりあるさやきの種をうけくちきりかこし  
申りーれ種草鞋をの及甲ハ申く先々の店つじ  
あやーのさうれ種をハ竹子つけく道をこも出せり  
赤表紙の名中記あり子鉄鎧をさけ種のを種ま  
さく種手種中と種よき根の赤種ハ巻さく子さー  
種匠の種種ハ種まゆけく種さうり種さうり種さ  
天を種身さうりさー大井川ハ種さけさうり種さ





くつてつて一舟も出さぬと云ふ為ありぬ雨もしぬれ月  
もしぬのりつりちとくまのくの山へけし一かき  
つら家の情と有りくくき折く困好裏とてり  
猿さうあつりあつら出齒やむ子にまゝあひなと禊  
園子のもてりあつらあるハ古寺とてりあつれと  
和尚ハ漢和もまゝつりて是のちけし其意盤まぐ  
さめあつ日の名残とてまゝして松茸も吟らあき  
りとも雲乃里とてりあつれあつてつてつてあつら  
やらさあつらつてこの下人を孫平とて我伯母平の名  
するものともあつら故々のまゝ折ある一とま  
仕友十年のるある海客のりつてつてあつら  
つり程千四千里とてりあつらつてつてつてつての  
あつらつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
情の情に君のつてつてつてつてつてつてつてつて  
とつあつらつてつてつてつてつてつてつてつてつて

借物の辨

久々の月とて日の光とてりて照せとてあつら月乃  
光とてりつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
のみつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
人代とてつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
あつらとつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
いまもつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
あつらつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて



ふあは誰ともしりのりき世に金根をいり  
及そはうり物うり世に子も務まはれど女府よりハ  
かりいまれあは世のおきてしとまうてはしりまれ  
る人のよによれり金根花

訪刺整辞

あつ刺整しと桐の坊よりとまつに勝のほ  
呼より名ときくよりやどて付の扱もまれされ  
とも十徳はまきやきめや飯汁はらまらんくつ  
とよりハいしとまら

瀬坂の世とめま捨る紙をうけ

猫自画賛

此のちと匂の白くはさくしきにおうまてえんた  
とあるまにゆくしとまらてとまらとまらとまら  
あつらまきしきとまらてとまらてとまらとまら  
と猫のあれなましあひまらとまらとまらとまら  
まらとまらとまらとまらとまらとまらとまらとまら  
かうし令圖書しとまらとまらとまらとまらとまら  
とまらとまらとまらとまらとまらとまらとまらとまら  
の人のあつとまらとまらとまらとまらとまらとまら  
とまらとまらとまらとまらとまらとまらとまらとまら  
のこの踊もまらとまらとまらとまらとまらとまらとまら



際してふとれ河はあはぢれとて逢子の別々の思ふ  
うらうとて一節の情のこころいと女の男とやう  
やむ男の女とてさうさう姿よき妻のふらうれは  
俳諧ハ万化よくけと老多き翁とてさうさう姿よ  
自由の傷あれと井筒ウカリのうらみの子の鞠あらし  
この情はれを源内はのすねまう紅裏よ名とて  
逢子の待らのこゝろはれとて句の姿よきとて  
まれてまを一句と捨つめおと他門のめおの逢子  
こゝろとてまを句の逢子のまをけりあはぢ男女  
の情は歌のまをけりあはぢのまをけりあはぢ  
よあはぢ一節とてさうさう姿よき妻とてさうさう  
ま一節の女をさうさう姿よき妻とてさうさう

まの思ふとてさうさう姿よき妻とてさうさう  
の軒とてさうさう姿よき妻とてさうさう  
註のつとてさうさう姿よき妻とてさうさう  
と西よとてさうさう姿よき妻とてさうさう  
こちか一節とてさうさう姿よき妻とてさうさう  
とさうさう姿よき妻とてさうさう姿よき妻とて  
者さうさう姿よき妻とてさうさう姿よき妻とて  
ちとてさうさう姿よき妻とてさうさう姿よき妻とて  
さうさう姿よき妻とてさうさう姿よき妻とて  
こゝろはれはの浦をさうさう姿よき妻とてさうさう  
今出川のさうさう姿よき妻とてさうさう姿よき妻とて  
末とてさうさう姿よき妻とてさうさう姿よき妻とて









松あり声とよみしきくたまりもよれらす春  
よハ洞ぬら西隣ありくきるのきままつむら  
萱七石味寄りしきくたまりもよれらす春  
久しくてあけられのあつまのまぶあつまつ  
戸午なきありきくたまりもよれらす春  
て芋ハ地よけりしきくたまりもよれらす春  
実入のちきくたまりもよれらす春  
北はちとらつものまやあつまつ  
一日の用よらつものまやあつまつ  
かきぬ人のしきくたまりもよれらす春  
きらぬとらつものまやあつまつ  
のニちよとらつものまやあつまつ  
我なりしきくたまり

断酒辨

ちきくたまり李杜酒獨もあつまつ上戸の目ハ下  
きくたまりしきくたまりもよれらす春  
剛徳のちきくたまりもよれらす春  
られく南郭、竹子とあつまつ  
みちちりしきくたまりもよれらす春  
しきくたまりしきくたまりもよれらす春  
あつまつしきくたまりもよれらす春  
試ハ一月の飲としてはあつまつ

て花のあしは月夕の夕アツてはあはれはるる  
ちりちりさのささりいふもさるるささり春の蝶  
の群をささりれ秋のささりもささりりてはるる  
下戸の奥の老と休てはささりれははるるささり  
川まはれはるるささりいふもささりりてはるる  
柳のま眼にささり吸物ささりれはるるささりりて  
はるる一醉歸よあはれはるるささりりてはるる  
月まはるるささりいふもささりりてはるる

花あはれは花のささりりてはるる

お念ふ侍

ささりれささりりてはるるささりりてはるる

のささりあはるるは健忘ささりりてはるる  
ささりのおうらにささりりてはるるささりりてはるる  
ささり昔は経学のささりりてはるるささりりてはるる  
ささりいふもささりりてはるるささりりてはるる  
ささりあはるるささりりてはるるささりりてはるる  
ささりいふもささりりてはるるささりりてはるる  
ささり秋の夜は虫ささりりてはるるささりりてはるる  
ささり森のささりりてはるるささりりてはるる  
ささりいふもささりりてはるるささりりてはるる  
ささり十罪ゆきりてはるるささりりてはるる



ありけれ大福をのち海法にまけとさうやきしうら  
いつあまげりすおとこり出たけいさか申へし  
或人の同じる母を例の子使のいりていつりさ  
うと答へしうらさしあしうての名言するこきい後西東  
をみえにたれしもの聲しに出来学しとく玄功の人  
も生あはれれとさいの外のあやまちをうらむる鬼を  
伯母も佐とわらふとらへし一狐の叔父もさうく  
四民の長えしとけし子鬼の伯母主にたり狐の伯母も  
佐とらへしとやまらぬ狐狸のあはれとさうと猫さ  
いさかいぬくの沙汰もれしもの正統の穿鑿にぬきを  
のそとてたけしうらとさしとて座あはれとけしと

あの一とらに申しとれしうとけしと湯をさしうら  
どの佛の称名にまじりてさけしとけしと百劫のり  
感應しとけしとけしとけしと三才図会  
のそとらに訓家果果のそとらとけしと赤表裏  
の小双紙もさしと交遊しとけしと昔今人の  
美女國をさしとオの終はさしとけしと美事にあらわれ  
捨塔にさしとけしと又の積欠の他の縁層もさしとけしと  
了鬼もあはれしとけしと果は東坡も九相のと  
けしとけしとけしとけしとけしとけしと引幕希乃  
陰ともこのまじりてさしとけしと新中もさしとけしと  
けしとけしとけしとけしとけしとけしとけしと  
せしとけしと

右の文章享保の初より寛保れ比  
まゝ半掃菴著考述の遺稿也

張藩 六林校

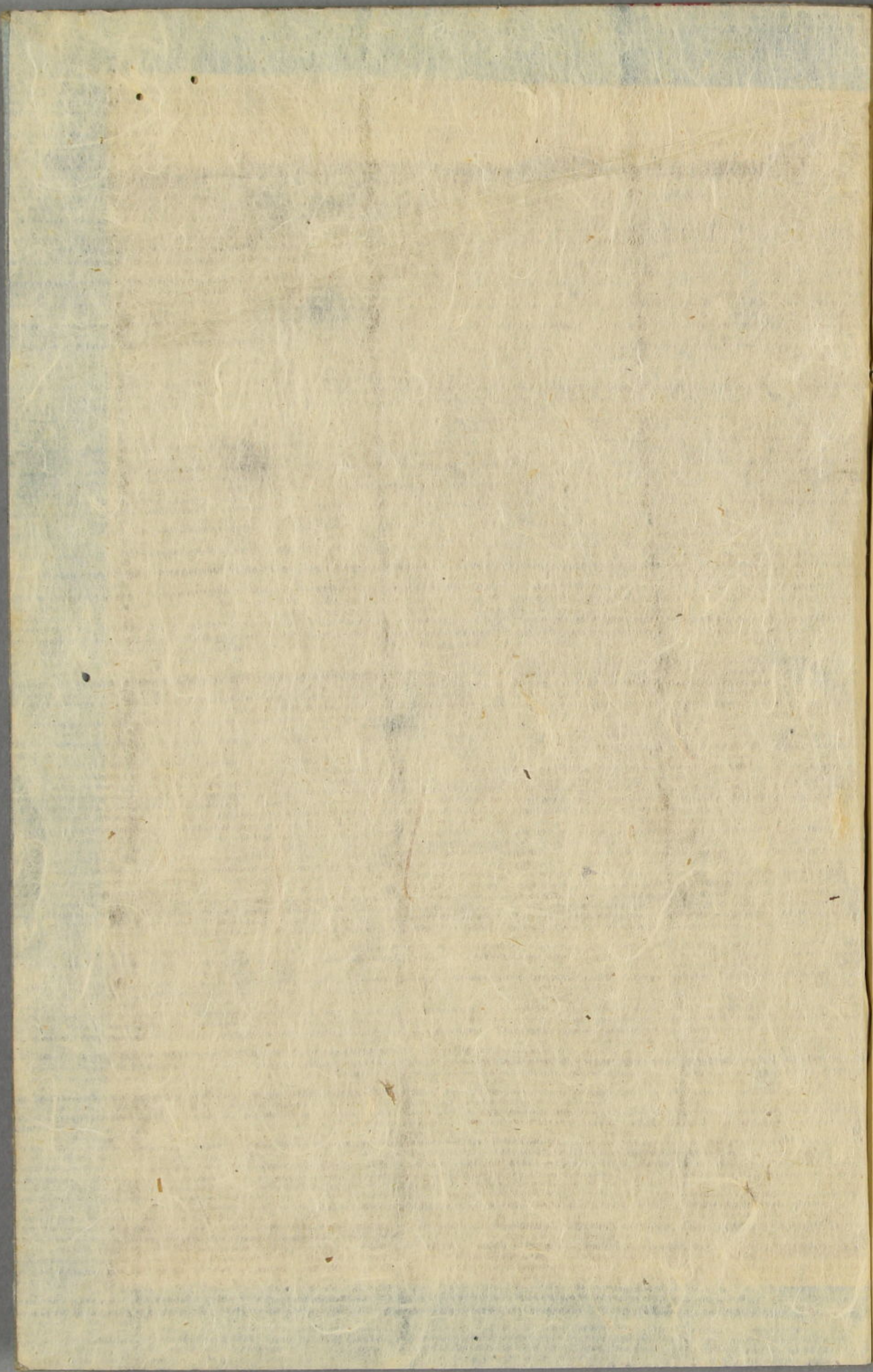
題 終 後

やある風雅乃信君子ありて予も莫海への  
交と許されしは教とてうらはしきありし  
はまのまの東都の四寸先生ありて予も  
その茅名を莫海より久しきまけうく衣を  
あつた壮より考ふてよまて生涯四寸の不断  
ありしきまの司ふおとくかへし並むさへ人  
あつてらむさへしを東都の先生いふて  
つらむらむらある人よこつてその地合  
深々をよもる中をうらむとあはれは依其益

あつたはしとふふ流水の音ある人まゝ外に  
やふあつたはしとふふ流水の音ある人まゝ外に  
文雅ある男ふさしいと鍵とて押し出す  
引出しとさう一文匣の底ふらふらとあつた  
中ふらふらとあつたのつらさをかたしとて押し出す  
あつたを押し出す日あつたとて梓に上を建  
近のぬす子一語つて音配をさやとのめつたあり  
津子とぬす子と隔せぬあつたといふ一しつら  
泉下ふらふらとあつたとて音配あつたといふ  
乃高誼ハ海内ニ如キる亦ハ梨ヤ杏ノ的ニ  
あつたといふあつたのあつたといふあつたといふ  
あつたといふあつたのあつたといふあつたといふ  
此一筆とさうと感とて聊とあつたあつたを附  
さつたといふ

天明五年乙巳所記の下句

菰花崗 六林識



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in dark ink on a yellowed, aged paper. The script is dense and fills most of the page, with some lines appearing to be part of a list or a continuous narrative. The ink is somewhat faded, and the paper shows signs of age, including discoloration and small spots.

